

# 谷川岳・東尾根 2015/03/22

メンバー：落合（CL）、齋藤（SL）、松村、荻原（ミソジ）

天神平駐車場 3：45 一ノ倉沢出合 4：50 シンセンのCOL 7：00 第2岩峰 7：20

オキの耳 9：50 肩の小屋 10：15 10：40 西黒尾根経由 登山指導センター 12：35

東尾根について今更詳細な記述など説明不要だと思うが、マチガ沢と一ノ倉沢に挟まれた尾根からオキの耳へダイレクトに突き上げる美しい雪稜には我々も憧憬の念を抱いていた。

天神平駐車場で前夜泊、いつもならもう少し酒を買い足したいところだが明日は早いので軽く一杯やって就寝。2時を回ると周囲で準備している人の音で目が覚める、アルパインのパーティーはザッとみて5パーティーくらい（すべてが東尾根ではないが）はいいただろうか。

一ノ倉沢出合までのアプローチは、最近の気温上昇もあり融雪が進み10分程度歩いたら林道が顕著に出ていてほぼ夏道通りに進む。本谷のデブリは左岸を中心に雪崩れている箇所があるがまだ比較的少ない。一ノ沢は上部に進むにつれ急斜面となるが、朝一のため雪面はガチガチでアイゼンをしっかり効かせながら時折ダガー・ポジションを取り、シンセンのCOLに出たらモルゲンロートに山肌が染まっていた。途中、枝沢の雪渓をツメてシンセン岩峰を登ってきたパーティーもいたが、上から見た感じ時間も掛かり悪そうにみえたので、セオリー通り一ノ沢をツメて来た方が無難だと思う。（雪崩の危険が高い場合は一ノ沢左稜を辿ってきた方が賢明なのかもしれない）



一ノ沢のアプローチで夜が明ける（雪面はガチガチだが雪は安定している）

第二岩峰は通常右を巻くようだがたいして雪が付いていなく直登する、思っていたよりドライな感じで少し拍子抜けしたが、前パーティーが取りついていたので少しだけ順番待ちを利用して一本。

さて我々の番だと準備に入ったその時、登って来た一ノ沢を見下ろしたら登山者が凄い勢いで反転しながら 200m 以上滑落して本谷へ消えていった・・・。

これから登ろうとしている時に嫌なものをみてしまったが、アルパインは集中力、油断した時こそ事故が起きやすいのだろう。（滑落した登山者はヘリで収容されたが、命に別状はなかったようだ）

第二岩峰は齋藤さんリード、特に難しさは無いが落ちたらマチガ沢へサヨナラなので手堅くロープを伸ばす。ロープは結局この一度だけしか出さなかった。



第二岩峰から一ノ沢とシンセン岩峰を俯瞰（左）、第二岩峰の登攀（右）

降雪やトレースの有無によってコースタイムは大幅に変わると思うが、行程通してトレースが付いているのでありがたく使わせてもらう。早い時期は第一岩峰まで雪の状態が悪ければロープを出すだろうし急登ラッセルや天候の急変等があった場合は大きなプレッシャーを感じながらの登攀となるのだろうと想像しながら登った。トップでトレースを付けてくれた方に感謝です。

中盤で筆者が寝不足のためか（それとも山に現を抜かしすぎて日頃の疲れが溜まっていたのか、）久しぶりに足が攣ってしまい遅れを取ってしまう。。

眼下にはマチガ沢と一ノ倉沢のスッパリ切れ落ちた景色に足元が竦む、振り返ると谷川馬蹄形の峰々・湯檜曾川流域の風景に癒される。

サングラスを忘れた荻原さんは齋藤さんの車にあったお出かけ用のグラサンを借りて使っていたが、松村・荻原コンビはあぶ刑事のタカとユージにしか見えず、妙にハマっていた。



核心のリッジからみるオキの耳はマチガ沢や一ノ倉沢から望む姿とはまた一味違い、  
アルペン気分を盛り上げてくれる。



谷川に来ると自ずと次はあのルートだねなんて話になって、それに向けてテーマが決まり目標も定まる。  
毎回違った手応えや満足感を味わえ、自分たちの成長を感じさせてくれる不思議な山だ。



オキの耳山頂から辿ってきた東尾根のリッジ（左）

山頂直下は雪庇が今にも崩れ落ちてきそうな張り出し方をしているので足早に通過した。

下りは東尾根に思いを馳せながら西黒尾根を下降、上部はシュルトが数ヶ所開いていたが特に問題なく通過、雪はサクサクでアツという間に下山した。

今冬、天神平の積雪は 3/17 で 4m30、同時期としては過去 5 年で 2014 年（4m70）に次ぐ多さとなっている。

以降、24 日未明に 85 センチの降雪があり、3/25 現在 4m70 となり近年では 2014 年に並び積雪の多い年になった。

ひと風吹けば別世界、春先の天候の変化や降雪は本当に侮れない。

谷川岳の雪稜シーズンは美しくも短く限定的ではあるが、入山規制前最後の週末タイミングよく登れてよかった。（2015 年、立ち入り禁止区域の登山禁止期間は 3/27～5/1 まで）

（記録：落合）